

教職科目

目次

901,902 教職概論(前期),(後期).....	1	918,919 音楽科教育法Ⅱ(前期),(後期).....	15
903,904 教育原論(前期),(後期).....	3	920,921 音楽科教育法Ⅲ(前期),(後期).....	17
905,906 教育課程の意義と編成(前期),(後期).....	4	922,923 音楽科教育法Ⅳ(前期),(後期).....	19
907,908 教育の方法・技術(前期),(後期).....	6	924,925 生徒指導・進路指導(前期),(後期).....	21
909,910 教育と法(前期),(後期).....	7	926 特別支援教育(集中).....	23
911 発達心理学(集中).....	9	927 総合的な学習の時間の指導法(集中).....	24
912 道徳理論と指導法(集中).....	10	931 教育実習.....	26
913 特別活動の指導法(集中).....	11	932 介護実習.....	27
914,915 教育相談(前期),(後期).....	12	941～944 教職実践演習(中・高)a～d(後期).....	28
916,917 音楽科教育法Ⅰ(前期),(後期).....	14		

901,902 教職概論(前期),(後期)

担当教員	杵鞭 広美 准教授	曜日時限	木 1時限
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位
		対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

現代社会における学校教師という職業の特性と社会的役割について理解を深める。わが国の教員養成制度、教員免許(資格認定)制度、教員の役割と職務内容についての基本的事項を理解する。進路選択に資する情報を提供し、教職という職業への具体的なイメージと関心を高めることを目的とする。

【到達目標】

学校教師という職業の特徴と社会的役割を理解できる。

①公教育の目的、教員の存在意義、教職の職業的特徴、教員に求められる役割、職務、服務上・身分上の義務を理解する。

②校内の教職員と効果的に連携し、組織的に諸課題に対応する重要性を理解する。教師として生涯学び続ける必要性を理解する。

教職に対する具体的なイメージをもつことができ、自身の適性を判断できる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者

【授業の形式】

【対面】講義

主に講義形式であるが、テーマに応じてディスカッションを行い、学校教師という職業へのイメージを高めていく。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
	○	○			○

【授業展開と内容-前期】

1.授業の概要と進め方、評価方法についての説明

教職の意義、なぜ教職を目指すのかを考える

2.学校教育における機能、学校教育制度、教員養成制度

わが国の教育に関する歴史的変遷の概説をとおして、今日の教育的制度を理解する

3.学校の組織と運営

学校を運営するうえでの組織、教員構成とそれぞれの社会的役割について理解する

4.公教育の目的、学校教育制度

公教育の目的と学校教育の制度について理解する

5.教員の職務内容、服務

学校教師の具体的な職務の概略を知り、社会的役割を理解する

6.学習指導要領

中学校、高等学校の学習指導要領の変遷をとおして、教科指導のありかたを理解する

7.チーム学校運営への対応

チーム学校運営を推進するための施策について理解する

8.授業づくり

円滑な授業を展開するために教師と生徒がどのようにかわればよいかを考える

9.子ども(生徒)理解

学級における集団づくりの重要性を理解し、いじめ問題への対応について擬似事例から考察する

10.特別支援教育(特別支援学校、特別支援学級、通常の学級)

多様なニーズをもつ生徒への対応のありかたを擬似事例

から考察する

11. 多文化理解

海外にルーツのある家庭など多様なニーズをもつ生徒への対応のありかたを擬似事例から考察する

12. 学校評価制度、教員評価

学校評価の制度および教員の評価制度について理解する

13. 多様な教師観・教育観、研修制度

多くの教師観や教育観が存在する中で教員の専門性とはなにかを考える

14. 新しい時代における教育的課題と教師の役割

今日の教育的課題に対応するための教員研修制度、教師のメンタルヘルスについて理解する

【事前・事後学習-前期】

各回の授業内容の復習および次回の子習

(教育関連の時事的問題の理解、関連図書と論文の講読、課題レポート等の作成等) 30分-60分

【授業展開と内容-後期】

1. ガイダンス

授業の概要と進め方、評価方法についての説明

教職の意義、なぜ教職を目指すのかを考える

2. 学校教育における機能、学校教育制度、教員養成制度

わが国の教育に関する歴史的変遷の概説をとおして、今日の教育的制度を理解する

3. 学校の組織と運営

学校を運営するうえでの組織、教員構成とそれぞれの社会的役割について理解する

4. 公教育の目的、学校教育制度

公教育の目的と学校教育の制度について理解する

5. 教員の職務内容、服務

学校教師の具体的な職務の概略を知り、社会的役割を理解する

6. 学習指導要領

中学校、高等学校の学習指導要領の変遷をとおして、教科指導のありかたを理解する

7. チーム学校運営への対応

チーム学校運営を推進するための施策について理解する

8. 授業づくり

円滑な授業を展開するために教師と生徒がどのようにかわればよいかを考える

9. 子ども(生徒)理解

学級における集団づくりの重要性を理解し、いじめ問題への対応について擬似事例から考察する

10. 特別支援教育(特別支援学校、特別支援学級、通常の学級)

多様なニーズをもつ生徒への対応のありかたを擬似事例から考察する

11. 多文化理解

海外にルーツのある家庭など多様なニーズをもつ生徒への対応のありかたを擬似事例から考察する

12. 学校評価制度、教員評価

学校評価の制度および教員の評価制度について理解する

13. 多様な教師観・教育観、研修制度

多くの教師観や教育観が存在する中で教員の専門性とはなにかを考える

14. 新しい時代における教育的課題と教師の役割

今日の教育的課題に対応するための教員研修制度、教師のメンタルヘルスについて理解する

【事前・事後学習-後期】

各回の授業内容の復習および次回の子習

(教育関連の時事的問題の理解、関連図書と論文の講読、課題レポート等の作成等) 30分-60分

【オフィスアワー】

授業終了後 調布教員室

【テキスト】

1. 教職論ハンドブック 改訂版 山口健二・高瀬淳・今井康好・森安史彦 編著 2020年 ¥2,640 978-4-623-08981-9

【教材】

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年)平成30年3月告示』2019

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年)平成29年3月告示』2018

その他は、適宜、授業内にて紹介する。

【その他】

連絡先: kinemuchi2020001tohomusic@gmail.com

903,904 教育原論(前期),(後期)					
担当教員	宮城 哲 講師		曜日時限	木 1時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	学部 1 年～

【授業の概要】

この授業では、教育と教育学の理念並びに歴史及び思想についての基本的概念・基礎的知識の修得を目的とする。受講生には、教育学との出会いによって、これまでの自分の受けてきた「教育」をとらえなおすことを期待する。「教える」、「学ぶ」とはどのようなことなのか、また、学ぶ(教えられる)者から教える(学ばせる)者になるとはどういうことなのかについて考えていく。

【到達目標】

教育及び教育学についての基本的概念・基礎的知識の修得を目標とする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者 大学1年

【授業の形式】

【対面】基本的には講義形式で行う。毎回授業内で、その日の内容に関連した課題を出す。受講生は、毎回小さな考察をまとめ、提出することが求められる。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○		○			○

【成績評価の要点②】

試験、レポートと授業への取組等を総合して評価する。

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1.この授業の概要 / 教育、教育学とはなにか 2.教育の理念、思想と歴史(1) 野生児の事例から 3.教育の理念、思想と歴史(2) 野生児の事例から近代教育の理念へ 4.教育の理念、思想と歴史(3) 近代教育の理念から近代学校の誕生 5.教育の理念、思想と歴史(4) 近代学校の成立から普及・拡大へ①:西洋 6.教育の理念、思想と歴史(5) 近代学校の成立から普及・拡大へ②:日本(明治～大正) | <ul style="list-style-type: none"> 7.教育の理念、思想と歴史(6) 近代学校の成立から普及・拡大へ③:日本(大正～昭和) 8.現代の教育とその課題(1) 総論 9.現代の教育とその課題(2) 不登校 10.現代の教育とその課題(3) いじめ 11.現代の教育とその課題(4) 体罰 12.現代の教育とその課題(5) 学力 13.現代の教育をめぐる課題(6) 共生(シティズンシップ教育) 14.学習内容のまとめ、今後の課題と発展的学習 |
|---|---|

【事前・事後学習-前期】

毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。次回の授業に向けて、予め読んでおく資料を

指定することもあるので、そのような場合には必ず準備をしてくること。(目安各60分)

【授業展開と内容-後期】

- | | |
|--|--|
| <p>1.この授業の概要 / 教育、教育学とはなにか</p> <p>2.教育の理念、思想と歴史(1) 野生児の事例から</p> <p>3.教育の理念、思想と歴史(2) 野生児の事例から近代教育の理念へ</p> <p>4.教育の理念、思想と歴史(3) 近代教育の理念から近代学校の誕生</p> <p>5.教育の理念、思想と歴史(4) 近代学校の成立から普及・拡大へ①:西洋</p> <p>6.教育の理念、思想と歴史(5) 近代学校の成立から普及・拡大へ②:日本(明治～大正)</p> | <p>7.教育の理念、思想と歴史(6) 近代学校の成立から普及・拡大へ③:日本(大正～昭和)</p> <p>8.現代の教育とその課題(1) 総論</p> <p>9.現代の教育とその課題(2) 不登校</p> <p>10.現代の教育とその課題(3) いじめ</p> <p>11.現代の教育とその課題(4) 体罰</p> <p>12.現代の教育とその課題(5) 学力</p> <p>13.現代の教育をめぐる課題(6) 共生(シティズンシップ教育)</p> <p>14.学習内容のまとめ、今後の課題と発展的学習</p> |
|--|--|

【事前・事後学習-後期】

毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。次回の授業に向けて、予め読んでおく資料を指定することもあるので、そのような場合には必ず準備をしてくること。(目安各60分)

【オフィスアワー】

授業前・後30分程度(ただし、必ず、事前に教務に連絡する)。

【教材】

特定のテキスト(教科書)を用いず、毎回レジュメや資料を配布する。参考書等は授業のなかで提示する。

905,906 教育課程の意義と編成(前期),(後期)					
担当教員		狩野 浩二 講師		曜日時限	
				水 2 時限	
実施キャンパス		単位		対象年次	
調布		各 2 単位		学部 1 年～	

【授業の概要】

- ・各教科目や領域における教育活動に関する歴史的展開、及び現行学習指導要領の構成原理等を理解し、特に中学校・高等学校における学級担任、教科担任等としての教員の役割や同僚との協力、学校における教職員の協働、地域社会や保護者、関係諸機関との連携に関する事例を学び、自らが主体的に学校における教育活動の計画立案、実行、総括と省察、計画の見直しに関する知識や技能を身に付けられるよう講座を展開する。
- ・教育課程の規準を示している学習指導要領に関して、その編成原理、歴史的展開、教科用図書編纂との関わり等を紹介し、その内容や目標等を実現するための実際的な教育活動の展開事例を複数示し、その実際事例と学習指導要領との関係を考えることができるように指導する。
- ・学習指導や生徒(生活)指導という二大機能(領域)の学的変遷を踏まえて、各教科や領域等の授業(教育活動)の意義、重要性について検討できる材料を提供する。実際的な教育活動の事例等を検討し、そこに潜んでいる原理や原則を抽出し、さらに、実際の教材を解釈し、模擬授業等を行うことにより、事前に手に入れた原理・原則の確かさを検証することになる。教員として最小限必要となる資質や能力のなかで、特に教育課程に関する知識や技能(カリキュラム・マネジメント力)を身に付けられるように授業を展開する予定である。

【到達目標】

- ・中学校及び、高等学校(中等教育学校を含む)における教育課程の編成原理とその編成(カリキュラム・マネジメント)につい

て理解することができ、実際の学校教育現場における教育課程を解釈することができる。

・学習指導要領の変遷及び、現行について理解することができ、学習指導要領に基づき編纂される教科用図書と授業の関係について考察し、自ら行う“指導計画作成”や“模擬授業”、教育実習における“授業”にその知識を活用することができる。

・中学校及び、高等学校(中等教育学校を含む)における各教科目、領域に関する指導計画作成の原則と日々行われる教育活動との関係を理解することができ、生徒の実態、発達特性、地域や保護者との関わり、関係諸機関との連携等を含めた実践的な教育課程論を自ら構築(カリキュラム・マネジメント)することができる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者(前期と後期とでクラス分けがあります)

【授業の形式】

対面授業の予定。

(遠隔受講生用にライブ配信する予定である)

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○	○	○	○

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1.教育課程とは何か。指導計画とどのように異なるのか | 8.教師によるカリキュラムづくり—授業の省察とデザイン |
| 2.各教科の歴史的展開と今日の学校教育 | 9.教師の学び、教師の省察と成長 |
| 3.領域の歴史的展開と今日の学校教育 | 10.教育評価の課題と可能性 |
| 4.カリキュラムを学ぶために—教育の思想 | 11.教師と子どもたちによって作られる単元学習 |
| 5.教育課程の構成要素 | 12.子どもたちの多様性と学校での学びの経験 |
| 6.日本における教育課程の歴史的展開 | 13.隠れたカリキュラム |
| 7.カリキュラムの現代的動向 | 14.まとめ:これからの時代における学校づくり |

【事前・事後学習-前期】

【事前学習】テキストの該当箇所を精読し、課題を析出。課題への予想をノートにまとめる(60分程度)。

【事後学習】講義を振り返り、学んだことをノートにまとめる。テキストを再読し、理解を深める(60分程度)。

【授業展開と内容-後期】

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1.教育課程とは何か。指導計画とどのように異なるのか | 8.教師によるカリキュラムづくり—授業の省察とデザイン |
| 2.各教科の歴史的展開と今日の学校教育 | 9.教師の学び、教師の省察と成長 |
| 3.領域の歴史的展開と今日の学校教育 | 10.教育評価の課題と可能性 |
| 4.カリキュラムを学ぶために—教育の思想 | 11.教師と子どもたちによって作られる単元学習 |
| 5.教育課程の構成要素 | 12.子どもたちの多様性と学校での学びの経験 |
| 6.日本における教育課程の歴史的展開 | 13.隠れたカリキュラム |
| 7.カリキュラムの現代的動向 | 14.まとめ:これからの時代における学校づくり |

【事前・事後学習-後期】

毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。次回の授業に向けて、予め読んでおくテキストを指定することもあるので、そのような場合には必ず準備をしてくること。(目安各60分)

【オフィスアワー】

電子メール(karino-kouji@pl.tohomusic.ac.jp)にて対応。

基本は、講義の前後である。どうしてもやむを得ない事情がある場合のみ、電子メールを使用すること。

【テキスト】

1.『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂 金井香里、佐藤英二、岩田一正、高井良健一 2019年 ¥2,640 978-4-

【教材】

横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版、『中学校学習指導要領解説・総則編』文部科学省(最新版)、『高等学校学習指導要領解説・総則編』文部科学省(最新版)

907,908 教育の方法・技術(前期),(後期)					
担当教員 狩野 浩二 講師			曜日時限		水 1 時限
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	学部 2 年～

【授業の概要】

- ・教育に関する方法や技術について、実際の授業を想定しながら考察する。特に、児童生徒と教師との接点である指導場面を具体的に考察する。
- ・教育は、子育てや地域の人間形成を含む領域である。この講義では、幅広くとらえつつ、学校教育における授業の成立に迫る。
- ・将来教師として、学校に勤務することを想定しながら、実際の子どもとの関係を考察する。ただ単に教員免許状の取得だけを目的とする科目ではない。

【到達目標】

- ・教師として、子どもたちの学習を組織することについての理解を深める。ただ単に知識や技能を授けるということではなく、子どもが自ら学び、考える授業づくりを理解する。
- ・学校教育における授業において、子どもの思考活動をつくることについて理解する。考えるためには、認識と表現の円環的な関係づくりが必要であることを理解する。
- ・集団である子どもは、ひとりひとりの子どもとしての学習の総和ではなく、集団としての学習を組織する力をもっている。集団の学習を組織する方法や技術を理解する。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職科目である。教育職員免許法に定める教育職員免許を取得する希望者のみが対象である。

【授業の形式】

対面授業の予定。

(遠隔受講生用にライブ配信する予定である)

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○	○	○	○

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1. ガイダンス、教育方法論の課題 | 7. 授業の展開と探究型学習 |
| 2. 授業づくりとは | 8. 学習評価の意味と方法 |
| 3. 教育の方法・技術とは | 9. 授業研究と授業づくり |
| 4. 子どもに求められる資質・能力と教育の方法・技術 | 10. 教材づくり・教材研究と授業づくりー ICT の活用 |
| 5. 子どもの学びと授業 | 11. 学習指導案と授業実践 |
| 6. 授業の構想・計画と教材研究 | 12. ICT を活用した授業づくり |

13.授業づくりを通じた教師教育の可能性

14.まとめ:これからの時代の授業づくり

【事前・事後学習-前期】

【事前予習】テキストを読み、教育の方法・技術とは何かをまとめ、疑問点を析出し、講義に臨みます(各授業に対して 60 分)。

【事後学習】講義を振り返り、あらためて教育の方法・技術について考えをノートに整理します(各授業に対して 60 分)。

【授業展開と内容-後期】

- 1.ガイダンス、教育方法論の課題
- 2.授業づくりとは
- 3.教育の方法・技術とは
- 4.子どもに求められる資質・能力と教育の方法・技術
- 5.子どもの学びと授業
- 6.授業の構想・計画と教材研究
- 7.授業の展開と探究型学習
- 8.学習評価の意味と方法
- 9.授業研究と授業づくり
- 10.教材づくり・教材研究と授業づくりー ICT の活用
- 11.学習指導案と授業実践
- 12.ICT を活用した授業づくり
- 13.授業づくりを通じた教師教育の可能性
- 14.まとめ:これからの時代の授業づくり

【事前・事後学習-後期】

【事前予習】テキストを読み、疑問点を析出し、自ら予想や仮説を立てた上で講義に臨みます(各授業に対して 60 分)。

【事後学習】講義を振り返り、テキストを再読、学んだことをノートに整理します(各授業に対して 60 分)。

【オフィスアワー】

電子メール(karino-kouji@pl.tohomusic.ac.jp)にて対応します。

対面授業の際は、1 限の前後に対応します。

【テキスト】

1.教育の方法・技術 新しい時代の授業づくりに向けて 狩野浩二 2019 年 ¥1,650 978-4-909124-28-9

備考:ジダイ社

【教材】

斎藤喜博『授業』国土社、横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版

909,910 教育と法(前期),(後期)					
担当教員		江口 和美 講師		曜日時限	
				金 1 時限	
実施キャンパス		単位		対象年次	
調布		各 2 単位		学部 2 年～	

【授業の概要】

本講義は、学校教育に係る行政制度(国と地方の役割分担を含む)の体系と基本的な関連法規の内容について理解を深めることが目的である。意識はしていなくても学校教育も多くのことは国の法令で定められた制度の枠内で行われている。自らも体験し、身近なことなので、積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。

【到達目標】

我が国の学校制度と関連する基本的な法体系を理解する。そのうえで、それぞれの学校種がどのように運営されているのか、教育費負担、教育課程、教職員、保護者など学校教育に関連する側面に視野を広げ、学校教育の全体像を理解し、学校教育における諸問題(地域連携・学校安全関連を含む)を多角的に考えられる素地を養う。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

日々のニュースや新聞等で教育や学校に関する報道に注意をはらっておくように。

【授業の形式】

【遠隔】

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○			○

【成績評価の要点②】

毎回の課題等の提出状況とその内容で評価する。

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1.憲法、教育基本法を読んでみよう | 8.教育課程と法 |
| 2.学校教育法を読んでみよう | 9.教職員に係る制度と法 |
| 3.教育行財政制度と法を概観する | 10.さまざまなリスクと対応(学校保健安全) |
| 4.学校教育の経費負担制度と法 | 11.食育・学校給食と法 |
| 5.就学前教育制度と法 | 12.学校、家庭、地域住民の連携と法 |
| 6.初等・中等教育制度と法 | 13.家庭教育、保護者、子どもの権利と福祉 |
| 7.高等教育制度と法 | 14.社会教育・生涯学習と法 |

【事前・事後学習-前期】

毎回、課題に取り組み提出すること。(課題に要する時間は30-60分程度と想定される)

日々のニュースや新聞等で教育や学校に関する報道に注意をはらう中で、常に疑問に思う点はないか意識しておくこと。

【授業展開と内容-後期】

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1.憲法、教育基本法を読んでみよう | 8.教育課程と法 |
| 2.学校教育法を読んでみよう | 9.教職員に係る制度と法 |
| 3.教育行財政制度と法を概観する | 10.さまざまなリスクと対応(学校保健安全) |
| 4.学校教育の経費負担制度と法 | 11.食育・学校給食と法 |
| 5.就学前教育制度と法 | 12.学校、家庭、地域住民の連携と法 |
| 6.初等・中等教育制度と法 | 13.家庭教育、保護者、子どもの権利と福祉 |
| 7.高等教育制度と法 | 14.社会教育・生涯学習と法 |

【事前・事後学習-後期】

毎回、課題に取り組み提出すること。(課題に要する時間は30-60分程度と想定される)

日々のニュースや新聞等で教育や学校に関する報道に注意をはらう中で、常に疑問に思う点はないか意識しておくこと。

【オフィスアワー】

【遠隔】のため、基本的にメール対応とします。メールアドレスは初回の講義でお知らせします。

【教材】

- 参考書(課題に取り組むうえで、いずれか1冊は手元にあると良いでしょう。)
- 高見茂他編(2018)『教育法規スタートアップ・ネクスト』昭和堂
- 解説教育六法編修委員会(2021)『解説教育六法 2021 令和2年版』三省堂書店
- 窪田眞二(2021)『教育法規便覧令和3年版』学陽書房

911 発達心理学(集中)

曜日時限・単位・担当教員 集中講義

実施キャンパス 調布

対象年次 学部1年～

【授業の概要】

発達心理学における基礎的な諸理論を概略的に学びながら、ヒトの発達過程や特徴を理解する。

人間の発達とコミュニケーション力の重要性について、教育の立場から考察する。

【到達目標】

生涯発達の視点にたち、主として、乳幼児期から成人期までの発達過程と認知的特徴について学ぶ。

乳幼児期から成人期までの各期における身体的側面、心理的側面からみた発達の特徴とその個人差を理解する。

発達に遅れを示す子どもやコミュニケーション上の難しさを抱える人たちの心理を行動面から分析し、個別的な支援のあり方について考察する。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者

ヒトの発達と環境の関係について、関心を持ち、授業に参加することが望ましい。

【授業の形式】

【遠隔】講義

講義が中心であるが、各回のテーマにそったディスカッションを行うことがある。

授業内において、学生各自のノートパソコンやスマートフォン等を活用しながら調べる作業を課すことがある。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○		○			○

【成績評価の要点②】

レポートによる評価は、授業内に示す課題を含む。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス 授業の概要と進め方

発達心理学の基礎理論

2.発達心理学における基礎理論1

成長と発達

発達を踏まえた学習理論

3.発達心理学における基礎理論2

「発達」のとらえかたの変遷

4.発達心理学に関する基礎理論3

生涯発達理論(エリクソンを中心に)

5.各期の発達過程とその特徴1

乳児期の感覚・知覚、認知とコミュニケーション力

乳児期の情緒的発達における他者との関わりの重要性

6.各期の発達過程とその特徴2

幼児期の運動能力、知覚・認知、社会性の発達

幼児期における発達とあそびの重要性

7.各期の発達過程とその特徴3

学童期の知覚・認知、学習能力、対人関係の発達

学童期における同年代の人とかかわる機会の重要性

8.各期の発達過程とその特徴4

青年期の心理、対人関係の発達

青年期において多様な世代の人とかかわる機会の重要性

9.各期の発達過程とその特徴5

成人前期と成人後期における身体的・心理的特徴
人間の発達とコミュニケーション力の重要性

10.発達のアセスメント1

人間の知能を評価する方法

11.発達のアセスメント2

人間の知覚・認知機能を評価する方法

12.発達のアセスメント3

人間の社会性、コミュニケーション力を評価する方法

13.発達の個人差の理解1

学校教育の現場において、行動面や学習面において困難さを示す児童・生徒への支援を考える

14.発達の個人差の理解2

身体的要因、環境的要因によるコミュニケーション上の難しさを抱える人たちの支援を考える

【事前・事後学習-前期】

各回の授業内容の復習および次回の予習

(発達心理学関連図書と論文の講読、課題レポート等の作成等)30分-60分

【オフィスアワー】

授業の前後

【教材】

川上清文・高井清子 編著 『対人関係の発達心理学 子どもたちの世界に近づく、とらえる』 新曜社 2019

小椋たみ子・小山正・水野久美 著 『乳幼児期のことばの発達とその遅れ 保育・発達を学ぶ人のための基礎知識』 ミネルヴァ書房 2015

912 道徳理論と指導法(集中)	
曜日時限・単位・担当教員	集中講義
実施キャンパス	調布
対象年次	学部1年～

【授業の概要】

この授業では、道徳の理論と指導法についての基礎的な知識・考え方を理解することを目的とする。受講生には、道徳についての基礎的な知識を修得することと、実際に道徳を子どもに教えるとはどういうことなのかを積極的に考えることを期待する。

【到達目標】

道徳の理論と指導法についての基礎的な知識・考え方を理解する。教育実習における指導案作成方法を修得する。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者 大学1年

【授業の形式】

【対面】基本的には講義形式で行う(ただし、グループでの作業等を行うこともある)。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○		○			○

【成績評価の要点②】

試験、レポート(指導案)と授業への取組等を総合して評価する。

【授業展開と内容-前期】

1. 「道徳」とはなにか
2. 「道徳」を教えるとはどういうことか
3. 道徳性の発達理論
4. 学校教育における道徳 1(歴史)
5. 学校教育における道徳 2(制度)
6. 学校教育における道徳 3(方法①)
7. 学校教育における道徳 4(方法②)
8. 学校教育における道徳 5(最近の動向)
9. 学習指導案の作成 1
10. 学習指導案の作成 2
11. 学習授業案の作成 3
12. 学習授業案の作成 4
13. 学習指導案の検討と評価
14. 学習内容のまとめ、今後の課題と発展的学習

【事前・事後学習-前期】

①授業前に学習指導要領に目を通しておくこと。②指導案作成。

【オフィスアワー】

授業前・後30分程度(ただし、必ず、事前に教務に連絡する)。

【教材】

特定のテキスト(教科書)は用いず、毎回レジュメと資料を配布する。参考書等は授業のなかで提示する。ただし、「中学校学習指導要領」(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)及び「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳」(平成 29 年 7 月 文部科学省)は各自が持ってくること。

913 特別活動の指導法(集中)

曜日時限・単位・担当教員 集中講義

実施キャンパス 調布

対象年次 学部3年～

【授業の概要】

現役高等学校教諭による実践的な内容の講義と演習。

特別活動の実践例の紹介、生徒との接し方、行事実施案の詳細など、学校現場で実際に必要な知識を身につけることを大きな目標とする。

【到達目標】

教師として授業以外にどのような仕事があり、またその各々の役割にどのように対処していくかを学び、理解する。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者 大学3年

【授業の形式】

【対面】講義

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○		○		○	

【成績評価の要点②】

成績評価はおもに試験によって行うが、出席率、平常点などの要素も総合的に勘案して成績評価をする。

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1.特別活動の指導の在り方と集団活動の意義 | 5.学級活動、ホームルーム活動の特質について |
| 2.指導要領における特別活動の目標と内容 | 6.生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質について |
| 3.家庭、地域住民や関係機関との連携 | 7.特別活動における取り組みの評価と改善活動について |
| 4.家庭、地域住民や関係機関との連携 | 8.1～7のまとめ |

【事前・事後学習-前期】

毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。次回の授業に向けて、予め読んでおく資料を指定することもあるので、そのような場合には必ず準備をしてくること。(目安各60分)

【オフィスアワー】

講義の前後 調布教室にて。

【教材】

自主教材を適宜配布

914,915 教育相談(前期),(後期)					
担当教員 杵鞭 広美 准教授			曜日時限		水 1時限
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	学部 2 年～

【授業の概要】

教育相談は、幼児児童生徒が集団生活のなかで人間関係を構築する発達過程を支援する教育活動である。この授業では、児童生徒の個々の発達状況に応じた支援のあり方を探るため、カウンセリングマインドに基づく教育相談の理論と技法を学び、具体的な支援に必要な基礎的知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①学校現場における教育相談の意義と課題について理解する。
- ②心理学に基づくカウンセリング等の理論と技法を学ぶ。
- ③フィクション事例をとおしてカウンセリング技法を実践的に学び、学校現場において教育相談を行う過程を理解する。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者

【授業の形式】

【対面】講義、演習

講義および演習形式である。

教育相談の意義と基本理念について理解し、その実際の専門的な援助技術の理論と方法、関係機関との連携のあり方等を学ぶ。

教育相談の実際について、フィクション事例をとおして学び、内容や方法についての理解を深めていく。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
	○	○			○

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1.ガイダンス 教育相談とは | 2.学校において教育相談を行うことの意味 |
|----------------|----------------------|

- 「教育相談」に関わる心理学の基礎理論
- 3.教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識1
幼児期から青年期までの発達過程とその理解
 - 4.教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識2
児童期、青年期における心理的特徴と問題行動
 - 5.教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識3
教育者に求められるカウンセリングマインドの視点、心理
アセスメント
 - 6.教育相談におけるカウンセリング技法1
学校教育におけるカウンセリングマインド
 - 7.教育相談におけるカウンセリング技法2
受容的態度、傾聴、共感的理解
 - 8.学校における教育相談の進め方1
学校組織の中での保護者への対応

【事前・事後学習-前期】

各回の授業内容の復習および次回の予習

(教育関連の時事的問題の理解、関連図書と論文の講読、課題レポート等の作成等)30分-60分

【授業展開と内容-後期】

- 1.ガイダンス 教育相談とは
- 2.学校において教育相談を行うことの意味
「教育相談」に関わる心理学の基礎理論
- 3.教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識1
幼児期から青年期までの発達過程とその理解
- 4.教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識2
児童期、青年期における心理的特徴と問題行動
- 5.教育現場で相談を進める際に必要な基礎知識3
教育者に求められるカウンセリングマインドの視点、心理
アセスメント
- 6.教育相談におけるカウンセリング技法1
学校教育におけるカウンセリングマインド
- 7.教育相談におけるカウンセリング技法2
受容的態度、傾聴、共感的理解
- 8.学校における教育相談の進め方1

【事前・事後学習-後期】

各回の授業内容の復習および次回の予習

(教育関連の時事的問題の理解、関連図書と論文の講読、課題レポート等の作成等)30分-60分

【オフィスアワー】

授業終了後 調布教員室

【テキスト】

- 1.教育相談(新・教職課程シリーズ) 田中智志・橋本美保監修 羽田紘一編著 2014年 ¥2,420 978-4-86359-068-7

【教材】

適宜、授業内にて紹介する。

- 9.学校における教育相談の進め方2
学校と地域連携のあり方
- 10.学校・保育現場で生じる諸問題1
いじめ、不登校・不登園の事例から ロールプレイを含む
- 11.学校現場で生じる諸問題2
虐待、非行の事例から ロールプレイを含む
- 12.教育相談における事例研究の進め方(フィクション事例
を用いて)
- 13.教育相談における校内体制の整備のあり方
学校教育現場における相談支援の意義 地域の専門機
関との連携の必要性
- 14.教育相談における地域との連携
医療機関、教育・福祉施設などの専門機関との連携に関
する具体例をととして

学校組織の中での保護者への対応

- 9.学校における教育相談の進め方2
学校と地域連携のあり方
- 10.学校・保育現場で生じる諸問題1
いじめ、不登校・不登園の事例から ロールプレイを含む
- 11.学校現場で生じる諸問題2
虐待、非行の事例から ロールプレイを含む
- 12.教育相談における事例研究の進め方(フィクション事例
を用いて)
- 13.教育相談における校内体制の整備のあり方
学校教育現場における相談支援の意義 地域の専門機
関との連携の必要性
- 14.教育相談における地域との連携
医療機関、教育・福祉施設などの専門機関との連携に関
する具体例をととして

916,917 音楽科教育法 I (前期),(後期)

担当教員	谷 茂樹 教授	曜日時限	金 1 時限
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位
		対象年次	学部 2 年～

【授業の概要】

講義を中心に行うが、実際の授業を想定し、生徒への話し方、伴奏の仕方、教材の活用方などについて模擬授業を通して解説する。特に授業時の発声法、歌唱法を指導する。

【到達目標】

学習指導要領の教育目標を理解するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計及び音楽教材の理解・指導方法を身につける。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者。

声楽副科、合唱を履修していると、より理解が深まる。

【授業の形式】

【遠隔】講義と実習

音楽鑑賞は DVD、CD の鑑賞があります。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○		○	○

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1.中学生・高等学校における音楽教育の意義(学習指導要領解説) | 8.集団授業における伴奏と模範歌唱について ①立弾等 |
| 2.生徒集団への対応 ①話し方 | 9.集団授業における伴奏と模範歌唱について ②生徒をけん引する歌唱 |
| 3.生徒集団への対応 ②板書他 | 10.教材紹介① 映像編 |
| 4.生徒集団への対応 ③騒乱状態への対応 | 11.教材紹介② 音源編 |
| 5.生徒集団への対応 ④集団への発声法、歌唱 | 12.教材紹介③ 著作編 |
| 6.教科書の扱い方 ①教科書から何を引き出すか | 13.伴奏の模擬授業① 歌唱編 |
| 7.教科書の扱い方 ②副教材の取り上げ方 | 14.伴奏の模擬授業② 弾き歌い編 |

【事前・事後学習-前期】

毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。次回の授業に向けて、予め読んでおく資料を指定することもあるので、そのような場合には必ず準備をしてくること。(目安各60分)

中田喜直作曲「夏の思い出」のピアノ弾き歌いを課題とします。ピアノと歌をしっかりと練習して下さい。

【授業展開と内容-後期】

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| 1.はじめに、音楽科教育法1 授業の説明
夏の思い出 | 4.赤とんぼ 歌唱法 弾き歌い |
| 2.夏の思い出 歌唱法 弾き歌い | 5.浜辺の歌 歌唱法 弾き歌い |
| 3.教師の心構え | 6.実際の授業の流れ 赤とんぼ 浜辺の歌 |
| | 7.生徒への対応 |

8.「花」歌唱法 弾き歌い

9.指導案の書き方

10.指導計画

11.荒城の月 歌唱法 弾き歌い

12.早春賦 歌唱法 弾き歌い

13.花の街 歌唱法 弾き歌い

14.社会人としての言葉遣い

レポート提出

【事前・事後学習-後期】

毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。次回の授業に向けて、予め読んでおく資料を指定することもあるので、そのような場合には必ず準備をしてくること。(目安各60分)

中田喜直作曲「夏の思い出」のピアノ弾き歌いを課題とします。ピアノと歌をしっかりと練習して下さい。

【オフィスアワー】

金曜日授業終了後 10 時 10 分より受け付けます。

【テキスト】

1.中学校・高等学校教科書(教育芸術社等)、自主制作資料、映像資料他

【教材】

自主制作資料、映像資料、中学校学習指導要領(最新版)、高等学校学習指導要領(最新版)他

918,919 音楽科教育法Ⅱ(前期),(後期)					
担当教員			曜日時限		
杵鞭 広美 准教授			曜日時限		木 2 時限
実施キャンパス		単位	対象年次		
調布		各 2 単位	対象年次		学部 3 年～

【授業の概要】

中等教育における音楽科の意義について、学習指導要領の内容をふまえて、音楽科の各領域(歌唱・器楽・創作・鑑賞)の内容と指導法の概要を学ぶ。一般の生徒たちと違い、音大生の多くは幼い頃から音楽に接してきた。学生が専門に学んできた音楽を、一般の生徒に通用する言葉に置き換える作業が必要である。それがこの授業の目的でもある。

教材の選択や授業の進め方、話し方など、実際に音楽の授業を行う上で必要な知識や技術を講義と演習を通して学んでいく。

【到達目標】

音楽科について学習指導要領の理解及び学習指導案の書き方の理解が授業の主な目的である。

また、音楽授業指導法の基礎を学生に定着させ、4年次の教育実習にむけて意識の向上をはかる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者 大学3年

【授業の形式】

【遠隔】講義、演習 (実施回によっては、個別対面あり)

この授業は【遠隔】による映像授業(オンデマンド方式)を中心に実施する。

通常、授業前日 19 時から当日 8 時までの間に toho のメールアドレスに授業映像と課題提出フォームの URL を送信するので確認し指示に従うこと。また、実際の教育実習の様子を映像を通して分析するなど、教育現場に即した授業を取り入れる。学習指導案の作成については、対面で個別に添削指導する機会を設ける。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○		○	○

【成績評価の要点②】

出席の状況、授業への関心態度、レポート等の提出物の内容から総合して評価する。

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|--|---|
| <p>1.オリエンテーション(学校教育における音楽科の位置づけ)</p> <p>2.学習指導要領(音楽)の概要</p> <p>○学習指導要領の構成と内容</p> <p>○共通事項、内容の取扱いについて</p> <p>3.音楽授業指導法(鑑賞領域)</p> <p>○ベートーヴェン作曲交響曲第5番の聴き比べ(知覚と感受について)</p> <p>4.音楽授業指導法(歌唱領域①)</p> <p>○外国語(イタリア語、ドイツ語、英語)歌曲の指導法の概要 - 外国語の音声学的特徴とディクシオン</p> <p>5.音楽授業指導法(歌唱領域②)</p> <p>○外国語歌曲の指導の実際(Santa Lucia、Caro mio ben、Heidenröslein、Memory 等)</p> <p>6.教育実習の授業観察①</p> <p>○中学3年生対象:能「羽衣」の授業観察と分析</p> <p>7.音楽授業指導法(創作領域①)</p> <p>○創作領域の授業例とその指導法</p> <p>○創作教材の実践演習(アンサンブルアレンジ)</p> <p>8.音楽授業指導法(創作領域②～器楽領域)</p> | <p>○アレンジのまとめ</p> <p>○器楽領域の授業例とその指導法</p> <p>9.教育実習の授業観察②</p> <p>○ボディーパーカッション:「Rock Trap」の授業観察と分析</p> <p>10.学習指導案の作成に関する指導① 学習指導案作成に関する基礎的事項</p> <p>○指導計画と評価計画</p> <p>○教材の選択とその指導展開</p> <p>11.学習指導案の作成に関する指導② 新学習指導要領に沿った学習指導案作成にむけて</p> <p>○指導計画および指導案作成上の配慮事項</p> <p>○指導展開例の作成と実践</p> <p>12.学習指導案作成演習と模擬授業①</p> <p>○音楽の「創作活動」における教材の選択とその指導展開</p> <p>13.学習指導案作成演習と模擬授業②</p> <p>○アクティブラーニングを意識した授業展開と指導の工夫1 個別演習</p> <p>14.学習指導案作成演習と模擬授業③</p> <p>○アクティブラーニングを意識した授業展開と指導の工夫2 グループ演習</p> |
|--|---|

【事前・事後学習-前期】

よい学習指導案を書くためには十分な授業設計力が必要である。各回の内容の復習はもちろんのこと、実際の授業を想定した指導案の各項目についてふさわしい文章表現ができるように意識しておくこと。

【授業展開と内容-後期】

- | | |
|---|--|
| <p>1.オリエンテーション(学校教育における音楽科の位置づけ)</p> <p>2.学習指導要領(音楽)の概要</p> <p>○学習指導要領の構成と内容</p> <p>○共通事項、内容の取扱いについて</p> <p>3.音楽授業指導法(鑑賞領域)</p> <p>○ベートーヴェン作曲交響曲第5番の聴き比べ(知覚と感受について)</p> <p>4.音楽授業指導法(歌唱領域①)</p> <p>○外国語(イタリア語、ドイツ語、英語)歌曲の指導法の概要 - 外国語の音声学的特徴とディクシオン</p> <p>5.音楽授業指導法(歌唱領域②)</p> | <p>○外国語歌曲の指導の実際(Santa Lucia、Caro mio ben、Heidenröslein、Memory 等)</p> <p>6.教育実習の授業観察①</p> <p>○中学3年生対象:能「羽衣」の授業観察と分析</p> <p>7.音楽授業指導法(創作領域①)</p> <p>○創作領域の授業例とその指導法</p> <p>○創作教材の実践演習(アンサンブルアレンジ)</p> <p>8.音楽授業指導法(創作領域②～器楽領域)</p> <p>○アレンジのまとめ</p> <p>○器楽領域の授業例とその指導法</p> <p>9.教育実習の授業観察②</p> <p>○ボディーパーカッション:「Rock Trap」の授業観察と分析</p> |
|---|--|

10.【対面実施】

学習指導案の作成に関する指導① 学習指導案作成に関する基礎的事項

- 指導計画と評価計画
- 教材の選択とその指導展開

11.【対面実施】

学習指導案の作成に関する指導② 新学習指導要領に沿った学習指導案作成にむけて

- 指導計画および指導案作成上の配慮事項
- 指導展開例の作成と実践

12.【対面実施】

【事前・事後学習-後期】

よい学習指導案を書くためには十分な授業設計力が必要である。各回の内容の復習はもちろんのこと、実際の授業を想定した指導案の各項目についてふさわしい文章表現ができるように意識しておくこと。

【オフィスアワー】

調布教室にて授業前後に時間を確保します。

【教材】

必要な資料はプリントで配布する。

参考図書 中学校・高等学校教員養成課程用『改訂版 最新 中等科音楽教育法』2017/18 年告示「中学校・高等学校学習指導要領」準拠 中等科音楽教育研究会

学習指導案作成演習と模擬授業①

○音楽の「創作活動」における教材の選択とその指導展開

13.【対面実施】

学習指導案作成演習と模擬授業②

○アクティブラーニングを意識した授業展開と指導の工夫1
個別演習

14.【対面実施】

学習指導案作成演習と模擬授業③

○アクティブラーニングを意識した授業展開と指導の工夫2
グループ演習

920,921 音楽科教育法Ⅲ(前期),(後期)					
担当教員	田中 正雄 講師		曜日時限	木 2 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	学部 3 年～

【授業の概要】

この授業では合唱の指導法を主に学ぶ。「合唱」の授業は教科科目としても設置されているが、ここでは主に「合唱指導法」を中心に授業が行われる。学校の授業やクラブ活動などで歌われる合唱曲を取り上げ、指導する側と歌う側の両面から指導法を考えていく。

【到達目標】

合唱指導の模擬授業を通して、指導する側の視点からの音楽の取り扱い方や指導の実践方法について理解を深め、次年度の教育実習にむけて意識を高めることができる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者 大学3年

【授業の形式】

この授業は【遠隔】(オンデマンド方式による映像授業)で実施する。合唱指導演習については、示範授業と、可能であれば5名程度のグループによる模擬授業を組み合わせでの実施を考えている。取り扱う楽曲については、必ずしも各回の予定とは一致しないこともあるので、授業での説明や連絡メールの情報を確認すること。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○		○	○

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション(合唱指導の概要)

- ・よい声とは
- ・合唱指導の現状と問題点
- ・合唱指導のプロセス
- ・教材研究の方法 等

2.合唱指導の実践にあたって

- ・音取り～パート練習～全体練習
- ・各段階に応じた練習方法
- ・合唱曲へのアプローチの方法(歌詞からのアプローチ、音楽の諸要素からのアプローチ等)

3.合唱指導演習①

- ・混声3部合唱曲を使った指導の実際(初級編1)・・・「COSMOS」、「大切なもの」

4.合唱指導演習②

- ・混声3部合唱曲を使った指導の実際(初級編2)・・・「この地球のどこかで」

5.合唱指導演習③

- ・混声3部合唱曲を使った指導の実際(中級編)・・・「春に」

6.合唱指導演習④

- ・ポップス合唱曲を使った指導の実際・・・「手紙」

7.合唱指導演習⑤

- ・より実践的な指導法(演奏の分析と歌詞の解釈)1・・・「時の旅人」

8.合唱指導演習⑥

- ・より実践的な指導法(演奏の分析と歌詞の解釈)2・・・「心の瞳」

9.合唱指導演習⑦

- ・より実践的な指導法(演奏の分析と歌詞の解釈)3・・・「HEIWAの鐘」

10.教育実習の様子から

- ・教育実習(中学校)の合唱指導授業の視聴と分析・・・「あなたに」

11.合唱指導演習⑧

- ・混声4部合唱曲を使った指導の実際・・・「大地讃頌」

12.合唱指導演習⑨

- ・混声4部合唱曲(外国曲)を使った指導の実際・・・「Hallelujah！」

13.合唱指導 DVD の視聴による指導法研究

14.合唱指導法のまとめと今後の課題

【事前・事後学習-前期】

模擬演習にあたっては、オリエンテーションで学んだ内容を基に十分な事前準備をもって臨むこと。また各回に取り扱う合唱曲については、事前に楽譜を下読みしたり音源を聴く等、模擬演習が円滑に行われるようにすること。

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション(合唱指導の概要)

- ・よい声とは
- ・合唱指導の現状と問題点
- ・合唱指導のプロセス
- ・教材研究の方法 等

2.合唱指導の実践にあたって

- ・音取り～パート練習～全体練習
- ・各段階に応じた練習方法
- ・合唱曲へのアプローチの方法(歌詞からのアプローチ、音楽の諸要素からのアプローチ等)

3.合唱指導演習①

- ・混声3部合唱曲を使った指導の実際(初級編1)・・・「COSMOS」、「大切なもの」

4.合唱指導演習②

- ・混声3部合唱曲を使った指導の実際(初級編2)・・・「この地球のどこかで」

5.合唱指導演習③

- ・混声3部合唱曲を使った指導の実際(中級編)・・・「春に」

6.合唱指導演習④

- ・ポップス合唱曲を使った指導の実際・・・「手紙」

7.合唱指導演習⑤

- ・より実践的な指導法(演奏の分析と歌詞の解釈)1・・・「時の旅人」

8.合唱指導演習⑥

- ・より実践的な指導法(演奏の分析と歌詞の解釈)2・・・「心の瞳」

9.合唱指導演習⑦

- ・より実践的な指導法(演奏の分析と歌詞の解釈)3・・・

「HEIWA の鐘」

10.教育実習の様子から

・教育実習(中学校)の合唱指導授業の視聴と分析・・・「あなたに」

11.合唱指導演習⑧

・混声4部合唱曲を使った指導の実際・・・「大地讃頌」

12.合唱指導演習⑨

・混声4部合唱曲(外国曲)を使った指導の実際・・・「Hallelujah！」

13.合唱指導 DVD の視聴による指導法研究

14.合唱指導法のまとめと今後の課題

【事前・事後学習-後期】

オリエンテーションで学んだ内容を基に、各回に取り扱う合唱曲については、事前に楽譜を下読みしたり音源を聴く等、学習が円滑に行われるように各自用意すること。

【オフィスアワー】

意見・質問等は メールアドレス tanaka-masao@pl.tohomusic.ac.jp 田中 まで。

【テキスト】

1.クラス合唱用 MY SONG 6訂版 渡瀬 昌治 2017年 ¥856 978-4877887988

備考:教育芸術社

922,923 音楽科教育法IV(前期),(後期)					
担当教員	石坂 浩毅 講師		曜日時限	木 2時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	学部 3 年～

【授業の概要】

日本の中学校及び高等学校での音楽教育において、管楽器の利用は頻繁である。とりわけ吹奏楽は部活動として非常に盛んであり、幅広く浸透している。また今日ではオーケストラを部活動として行う学校も多い。音楽教育の非常に大切な要素の一つである音楽鑑賞においてジャンルを問わず使用される管楽器群への理解は、器楽アンサンブル、また音楽そのものへの興味、理解へとつながる。

音楽科を専門とした教職を志す者はその指導を行う準備として、管楽器の特色や演奏法を理解し、学ぶ必要がある。この授業では管楽器の成り立ち、構造、演奏法、および吹奏楽を中心とした管楽器を用いた器楽アンサンブルにおける「響き(鳴り)」、「発音」、「拍子(拍)」、「音程」とは何かという学校音楽教育にかかすことのできない要素を学習し、その指導法を理解する。

【到達目標】

吹奏楽で使用される楽器についてそれぞれの特色を理解する。

吹奏楽を中心とした管楽器を用いた器楽アンサンブルにおける「響き(鳴り)」、「発音」、「拍子(拍)」、「音程」とは何かという学校音楽教育にかかすことのできない要素を学習し、その指導法を理解する。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者 大学 3 年

【授業の形式】

実施方式 : 【遠隔】

Classroom クラスコード:keqjngd

Classroom にて本来の講義実施時間以前に講義動画および、テキストをアップロードする。

テキストを確認しながら配信動画にて講義を受講し、Eメールにて考察を提出すること。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
	○	○		○	

【成績評価の要点②】

各講義のための考察は 150 字以上のものとする。

150 字以下のもの、内容が明らかに講義の内容にそぐわないものに関しては出席を認めかねる。

【授業展開と内容-前期】

1. 学校教育における吹奏楽、管楽器指導についての基礎知識
テキスト PDF データをダウンロード、印刷した上で動画を視聴し、講義の考察を提出すること。
詳細は第一回講義において説明する。
2. 管楽器における「響き(鳴り)」「発音」「拍子(拍)」「音程」
第 2 回以降、課題は履修者に直接メールで送付するものとする。
3. 具体例を用いた「響き(鳴り)」の指導法
4. 具体例を用いた「発音」「拍子(拍)」の指導法
5. 具体例を用いた「音程」の指導法、フレーズリングについて

6. 金管楽器の発音の仕組みと倍音について
7. 金管楽器の構造と奏法 トランペット、トロンボーンについて
8. 金管楽器の構造と奏法 ホルン、ユーフォニアム、テューバについて
9. 木管楽器の構造と奏法 リコーダー、フルートについて
10. 木管楽器の構造と奏法 オーボエ、ファゴットについて
11. 木管楽器の構造と奏法 クラリネット、サクソフォンについて
12. 打楽器の構造と奏法 打楽器とリズムについて
13. 部活動としての吹奏楽について
14. 吹奏楽指導、管楽器総論

【事前・事後学習-前期】

本来の講義日である木曜日の次の日曜日までに各講義の考察を提出すること。

【授業展開と内容-後期】

1. 学校教育における吹奏楽、管楽器指導についての基礎知識
テキスト PDF データをダウンロードした上で動画を視聴し、講義の考察を学校指定のメールアドレスより提出すること。
詳細は第一回講義において説明する。
第一回講義日の前日までに、この欄に第一回目の講義動画の URL を記載し、テキストを添付する。各自確認すること。
2. 管楽器における「響き(鳴り)」「発音」「拍子(拍)」「音程」
第 2 回以降、課題は履修者に直接メールで送付するものとする。
3. 具体例を用いた「響き(鳴り)」の指導法
4. 具体例を用いた「発音」「拍子(拍)」の指導法
5. 具体例を用いた「音程」の指導法、フレーズリングについて

6. 金管楽器の発音の仕組みと倍音について
7. 金管楽器の構造と奏法 トランペット、トロンボーンについて
8. 金管楽器の構造と奏法 ホルン、ユーフォニアム、テューバについて
9. 木管楽器の構造と奏法 リコーダー、フルートについて
10. 木管楽器の構造と奏法 オーボエ、ファゴットについて
11. 木管楽器の構造と奏法 クラリネット、サクソフォンについて
12. 打楽器の構造と奏法 打楽器とリズムについて
13. 部活動としての吹奏楽について
14. 吹奏楽指導、管楽器総論

【事前・事後学習-後期】

本来の講義日である木曜日の次の日曜日までに各講義の考察を提出すること。

【オフィスアワー】

質問はメールにて受け付ける。

石坂浩毅 ishizaka.hiroki@g.tohomusic.ac.jp

【教材】

講義中に適宜資料を配布する。

SONG AND WIND-Arnold Jacobs、WOODWIND INSTRUMENTS and their History-Anthony Baines(請求記号:S02-125)

924,925 生徒指導・進路指導(前期),(後期)					
担当教員	山本 剛 講師	曜日時限		木 1時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	学部 3 年～

【授業の概要】

生徒指導の理論及び方法と進路指導・キャリア教育の理論及び方法を捉えるための枠組みを提供し、受講者とともに教員として効果的な対応のあり方を学んでいきたい。主な内容として、生徒指導に関する主な法令、生徒指導上の課題(学級崩壊、不登校、いじめ、非行)、進路指導・キャリア教育の問題を取り上げる。さらに、今日的な教育課題を深く理解するために教育に関する論文を読む。授業の展開では、小グループを設定し、グループディスカッション、グループラーニングの機会を設け、受講者自身がグループ体験をする中で、学習活動を促進していきたい。

【到達目標】

- 1 学校現場で、生徒個々の特性を踏まえた生徒指導と進路指導及びキャリア教育を行うための理論を理解する。
- 2 生徒を取り巻く環境要因を把握し、指導・援助していくための基礎知識と技法を習得する。
- 3 進路指導計画の立案、実施方法を理解する。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

受講生は、子どもや青年がそこに成長しつつある社会や学校について、自身の問題とかかわらせて、日本の学校教育の歴史的展開を理解し、現代の教育について多様な観点から考察を深めてください。

【授業の形式】

【遠隔】 文書配信型授業

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○			○

【成績評価の要点②】

レポート試験(80%)、毎回の授業で提出する小レポート(20%)

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1.第1回:オリエンテーション:本講義の目的、概要、構成について | 法 |
| (1) 教育とはなにか? (2) 教育課程における生徒指導の位置付け | 4.第4回:生徒指導をめぐる諸問題① |
| 2.第2回:生徒指導の意義と原理について | (1) 校内暴力・非行等の問題行動 (2) いじめ、不登校、インターネット・携帯電話にかかわる課題 |
| (1) 生徒指導の意義と原理 (2) 生徒指導の基礎理論(人間観・発達観) | 5.第5回:生徒指導をめぐる諸問題② |
| 3.第3回:生徒指導の方法について | (1) 命の教育と自殺防止 (2) 児童虐待への対応 |
| (1) 個別指導と集団指導 (2) 観察法、質問紙法、面接 | 6.第6回:生徒理解の基本と具体的な生徒指導の進め方 |
| | (1) 青年期の発達と発達障害の理解 (2) 教員・学校・家庭の課題 |

7.第7回:生徒指導体制と教員の役割

- (1) 学校組織・関係諸機関との連携 (2) 懲戒・体罰・校則等

8.第8回:進路指導・キャリア教育の意義について

- (1) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け
- (2) 進路指導・キャリア教育の歴史

9.第9回:進路指導・キャリア教育の方法

- (1) 観察法、質問紙法、面接法 (2) 個別指導と集団指導

10.第10回:進路指導の課題

- (1) 若年の労働と生活 (2) 退学問題

【事前・事後学習-前期】

毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。次回の授業に向けて、予め読んでおく資料を指定することもあるので、そのような場合には必ず準備をしてくること。(目安各60分)

【授業展開と内容-後期】

1.第1回:オリエンテーション:本講義の目的、概要、構成について

- (1) 教育とはなにか? (2) 教育課程における生徒指導の位置付け

2.第2回:生徒指導の意義と原理について

- (1) 生徒指導の意義と原理 (2) 生徒指導の基礎理論(人間観・発達観)

3.第3回:生徒指導の方法について

- (1) 個別指導と集団指導 (2) 観察法、質問紙法、面接法

4.第4回:生徒指導をめぐる諸問題①

- (1) 校内暴力・非行等の問題行動 (2) いじめ、不登校、インターネット・携帯電話にかかわる課題

5.第5回:生徒指導をめぐる諸問題②

- (1) 命の教育と自殺防止 (2) 児童虐待への対応

6.第6回:生徒理解の基本と具体的な生徒指導の進め方

- (1) 青年期の発達と発達障害の理解 (2) 教員・学校・家庭の課題

7.第7回:生徒指導体制と教員の役割

- (1) 学校組織・関係諸機関との連携 (2) 懲戒・体罰・校

【事前・事後学習-後期】

毎回授業で解説を聞いた後、必ず各自で復習し、内容をよく理解してください。次回の授業に向けて、予め読んでおく資料を指定することもあるので、そのような場合には必ず準備をしてくること。(目安各60分)

【オフィスアワー】

木曜日 調布教室にて授業前後に時間を確保します。

【テキスト】

- 1.『生徒指導提要』文部科学省

11.第11回:進路指導とその現状

- (1) フリータ・ニートの問題 (2) 非正規雇用の問題

12.第12回:キャリア教育と進路指導の課題

- (1) キャリア・カウンセリング (2) キャリア・デザイン (3) 政府の人材育成施策

13.第13回:キャリア教育の実際①-事例と考察-

- (1) 職場体験活動とインターンシップ (2) 中学校と高等学校におけるキャリア教育実践

14.第14回:授業のまとめと今後の課題

定期試験は実施しない。

則等

8.第8回:進路指導・キャリア教育の意義について

- (1) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け
- (2) 進路指導・キャリア教育の歴史

9.第9回:進路指導・キャリア教育の方法

- (1) 観察法、質問紙法、面接法 (2) 個別指導と集団指導

10.第10回:進路指導の課題

- (1) 若年の労働と生活 (2) 退学問題

11.第11回:進路指導とその現状

- (1) フリータ・ニートの問題 (2) 非正規雇用の問題

12.第12回:キャリア教育と進路指導の課題

- (1) キャリア・カウンセリング (2) キャリア・デザイン (3) 政府の人材育成施策

13.第13回:キャリア教育の実際①-事例と考察-

- (1) 職場体験活動とインターンシップ (2) 中学校と高等学校におけるキャリア教育実践

14.第14回:授業のまとめと今後の課題

定期試験は実施しない。

【教材】

『生徒指導・進路指導の理論と実際』河村茂雄編著、図書文化社、2011年

『新訂 キャリア教育入門：その理論と実践のために』三村隆男著、実業之日本社、2008年

926 特別支援教育(集中)	
曜日時限・単位・担当教員	集中講義 1単位・ 担当:杵鞭 広美 准教授
実施キャンパス	調布
対象年次	学部1年～

【授業の概要】

特別支援教育の対象となる子どもの発達支援について、教育学・心理学的視点から理解することを目的とする。乳幼児期から青年期の発達支援の現状と特別支援教育において実践されている指導法の成果を知ることによって、特別支援教育の専門性について理解を深める。また、他の教員や関係機関との連携のあり方についても理解を深めることを目指す。

【到達目標】

- ①インクルーシブ教育の理念および特別支援教育の制度について理解する。
- ②特別支援教育の対象となる児童生徒のコミュニケーションの様相と心理について理解する。
- ③特別支援教育の対象となる児童生徒の日常生活での行動の意味を知り、具体的な援助につなげる方法について考えることができる。
- ④特別支援教育の対象となる子どもたちの現状を理解し、適切な支援のあり方について考えることができる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者

【授業の形式】

【遠隔】講義

講義が中心であるが、各回のテーマにそったディスカッションやロールプレイを行うことがある。

授業内において、学生各自のノートパソコンやスマートフォン等を活用しながら調べる作業を課すことがある。

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
	○	○			○

【授業展開と内容-前期】

- | | |
|---|--|
| 1.ガイダンス 授業概要と進め方
特別支援教育とは | 特別支援学級、通級による指導、特別支援教育コーディネーターの役割 |
| 2.特別支援教育の概要 1
学校教育の制度と特別支援教育、歴史的変遷、インクルーシブ教育 | 5.特別支援教育の対象となる子どものアセスメントの実際 1
行動観察におけるアセスメント |
| 3.特別支援教育の概要 2
特別支援教育の対象、教育課程、個別の教育支援計画 | 6.特別支援教育の対象となる子どものアセスメントの実際 2
社会適応性、コミュニケーションに関するアセスメント |
| 4.特別支援教育の概要 3 | 7.特別支援教育における支援の実際 1
視覚障害、聴覚障害児への支援 |

視覚支援学校、聴覚支援学校における教育

8.特別支援教育における支援の実際 2

学習障害児への支援

読み書き、算数に関する個別指導

9.特別支援教育における支援の実際 3

自閉症スペクトラム、知的障害児への支援

補助・代替コミュニケーション(AAC)、TEACCH プログラム、応用行動分析(ABA)

10.特別支援教育における支援の実際 4

事例検討におけるカンファレンス、学校と地域との連携、学校と特別支援コーディネーターとの連携、

個別の教育支援計画

11.特別支援教育と教育課程

「通級による指導」、「自立活動」について

12.個別の教育支援計画の作成 1

幼稚園(保育所)における就学までの支援の実践事例

13.個別の教育支援計画の作成 2

小学校(通常学級、特別支援学級)における支援の実践事例

14.さまざまなニーズをもつ児童生徒の現状と支援

コミュニケーション(ことば)の問題、貧困の問題から生じる教育的ニーズ

【事前・事後学習-前期】

各回の授業内容の復習および次回の予習

(特別支援教育関連の時事的問題の理解、関連図書と論文の講読、課題レポート等の作成等)30分-60分

【オフィスアワー】

授業終了後

【教材】

宮崎英憲監修『平成 29 年版 小学校新学習指導要領の展開 特別支援教育編』明治図書出版 2018

川井紀宗・若松昭彦・牟田口辰己 編著『特別支援教育総論-インクルーシブ時代の理論と実践-』北大路書房 2016

氏森英亜・宮崎眞編著『一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育入門-発達支援の基本と実際-』川島書店 2006

927 総合的な学習の時間の指導法(集中)

曜日時限・単位・担当教員 集中講義 1 単位 ・担当:宇佐美博子講師

実施キャンパス 調布

対象年次 学部 3 年～

【授業の概要】

- 1 総合的な学習の時間の目標や年間指導計画作成の考え方、単元指導計画の作成等についてグループで検討しながら理解を深めていく。
- 2 グループごとに単元指導計画を作成し、主体的・対話的で深い学びが実現できる探究的な学習の指導と評価の在り方を身に付けるようにする。

【到達目標】

1. 当該科目の目標及び内容
 - (1)総合的な学習の時間の意義や各学校において目標を定める際の考え方を理解することができる。
 - (2)総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。

(3)総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解することができる。

2. 当該科目の指導方法と授業設計

(1)総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割、育成する資質能力等をテキストや具体的事例を基にして理解できるようにする。

(2)他教科等との関連を図った年間指導計画の考え方や主体的・対話的で深い学びの実現を図る探究的な学習の進め方について、具体的な事例を通して検討し、理解できるようにする。

(3)グループごとの単元指導計画の作成・考察を通して、指導と評価の考え方を身に付けるようにする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教員免許状取得のための必修科目

【授業の形式】

【対面】講義

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
○			○		

【成績評価の要点②】

定期試験(70%)、単元指導計画の作成・発表(30%)

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス(本講座の目標や内容、授業の進め方や評価の仕方などについて)

2.総合的な学習の時間の意義や目標設定の考え方を理解する。

3.各学校で目標及び内容を定める際の留意点を理解する。

4.各教科等との関連を図った年間指導計画の具体的事例を検討する。

5.各教科等との関連を図った年間指導計画の作成の考え方を理解する。

6.主体的・対話的で深い学びを実現するような、単元指導計画の事例を検討する。

7.単元指導計画作成の考え方や配慮事項を理解する。

8.主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習過程を検討する。

9.具体例を基にして探究的な学習の指導のポイントを理解する。

10.総合的な学習の時間の指導と評価の基本的な考え方を検討する。

11.評価規準の設定と評価方法の工夫を検討する。

12.グループごとに単元指導計画を検討し作成する。

13.グループが作成した単元指導計画の発表と考察1

14.グループが作成した単元指導計画の発表と考察2

本講座のまとめと振り返り

【事前・事後学習-前期】

授業内で指示した内容を予習してくること。原則として、授業で出す課題等によって復習を行うこと。(目安各60分)

【オフィスアワー】

調布教室にて授業前後に時間を確保します。

【テキスト】

1.中学校学習指導要領解説(最新版)

2.高等学校学習指導要領解説(最新版)

3.総合的な学習の時間編(平成30年3月 文部科学省)

【教材】

授業中に適宜資料を配布する。

931 教育実習

曜日時限・単位・担当教員

教育実習+事前・事後指導 ・3 単位(2 週間実習),5 単位(3 週間実習) ・担当:谷 茂樹
教授, 杵鞭 広美 准教授

実施キャンパス

調布

対象年次

学部 4 年

【授業の概要】

教育実習に関する事前指導を受講した後、各自の実習校にて教育実習を行う。その後、事後指導を受講する。

教育実習は、これまでに教職科目等で学んだ事柄を踏まえた教職課程の仕上げとなるものである。

各自が真剣に取り組み、実りある実習となることを期待する。

【到達目標】

教育現場(中学校、高等学校)での実習を体験し、学校教師に求められている資質・能力とはどのようなものであるのかを見出すことができる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者

大学4年以上で教育実習校が決定している(決定見込み)の者

【授業の形式】

【対面】講義、演習

事前指導 実習前の心構えや事前準備に関する講義

実習(2週間～3週間)

事後指導 実習終了後のフィードバック

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○			○

【成績評価の要点②】

実習校からの評価、事前・事後指導での取り組みを合わせて、総合的に評価する。

【授業展開と内容-前期】

1.教育実習の準備

員・生徒とのかかわり

事前指導① 教育実習の目的、実習前後のスケジュール
管理、評価について

2.教育実習(2週間あるいは3週間)

事前指導② 実習手帳(日誌)の記述、指導案作成、指導
教材等の準備

3.事後指導① 実習体験についてのディスカッション(他の
学生と実習体験を共有し、各自のフィードバックを行う)

事前指導③ 実習校訪問時のマナー、実習校での教職

4.事後指導② 実習体験に関するレポートの作成とアンケ
ートの提出

【事前・事後学習-前期】

事前指導の受講にあたって ①実習校との打ち合わせおよび連絡方法等の確認 ②日誌、指導案作成の準備 ③教材研究

事後指導の受講にあたって ①実習日誌等のまとめ ②事後レポートの素案づくり

【オフィスアワー】

随時対応する。

緊急時以外は、事前に担当教員と連絡をとり日時を相談する。

連絡方法は、初回授業時に通知する。

【教材】

授業時に資料を配布する。

【その他】

①教育実習の履修には、事前指導と事後指導の授業にすべて出席し、実習終了後に課題を提出することが必須である。

②実習校からの評価が得られない場合、履修は認められない。

932 介護実習	
曜日時限・単位・担当教員	介護体験(7日間)+事前・事後学習・2単位・担当:杵鞭 広美 准教授
実施キャンパス	調布
対象年次	学部2～4年

【授業の概要】

中学校教諭免許状取得にあたっては「介護等体験」を行う必要がある。

事前指導を受講後、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、合計7日間の「介護等体験」を行う。

【到達目標】

介護実習をとおして、社会人としての視野を広げることを目的とする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

教職課程履修者

【授業の形式】

【対面】講義、演習

事前指導

特別支援学校での実習(2日間)

社会福祉施設での実習(5日間)

事後指導

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○			○

【成績評価の要点②】

事前オリエンテーションの受講、介護による「介護等体験の記録」、「学校体験学習レポート」、「各都道府県所定のレポート(指定がある場合)」により総合的に評価する。

【授業展開と内容-前期】

1.介護実習にむけて 事前指導 ①

オリエンテーション 介護実習を行うにあたっての諸注意

2.介護実習にむけて 事前指導 ②

「特別支援学校」「社会福祉施設」について

3.介護等体験 特別支援学校 2日間

4.介護等体験 社会福祉施設 5日間

5.介護実習の振り返り 事後指導

【事前・事後学習-前期】

「特別支援学校」「社会福祉施設」の概要をインターネットや書籍等で調べる。

介護実習での実体験を振り返り、自らが学んだことをまとめておく。

【オフィスアワー】

随時対応する。

緊急時以外は、事前に担当教員と連絡をとり日時を相談する。連絡方法は、初回授業時に通知する。

【教材】

授業時に資料を配布する(介護実習体験ハンドブック)

941～944 教職実践演習(中・高)a～d(後期)					
担当教員	谷 茂樹 教授		曜日時限	月 1 時限	
	杵鞭 広美 准教授			月 2 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	学部 4 年

【授業の概要】

この科目は、教職課程の全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられる。履修をとおして、将来、教員になる上で、自らの課題を見出すことと、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることを目指す。社会人としての基本(挨拶や言葉づかい)から、音楽的な知識や技術の習得まで幅広く授業を展開する。

【到達目標】

教師としての自覚、常に課題を持ち学ぶ姿勢等を再確認する。

研究発表等により、学生間の意見交流をとおして教育実践の学びを深める。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

今年度、教育実習を予定している、あるいは実習を終了した学生

【授業の形式】

【対面】講義、研究発表(一部、模擬授業など)

研究発表までにレジュメを各自作成する

【成績評価の要点①】

試験	小テスト等	レポート	発表・作品	出席率	授業への取組
		○	○		○

【授業展開と内容-後期】

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| 1.対面で行います | 4.学生による研究発表2 |
| 1時限クラス 9時～10時10分 | 5.学生による研究発表3 |
| 2時限クラス 10時30分～11時50分 | 6.学生による研究発表4 |
| 授業の進め方(スケジュール、形態)に関する説明 | 7.学生による研究発表5 |
| 各クラスにて、研究発表スケジュールの確認・決定 | 8.学生による研究発表6 |
| 2.教師を目指す上での心構え(特別招聘講師による講演) | 9.学生による研究発表7 |
| 3.学生による研究発表1 | 10.学生による研究発表8 |

11.学生による研究発表9

12.学生による研究発表 10

【事前・事後学習-後期】

模擬授業、研究発表にむけた準備

【オフィスアワー】

授業の前後

【教材】

適宜、資料を配布する。

13.学生による研究発表 11

14.まとめ 教育実習の振り返りを含む